

Marvelous

変額個人年金保険(2005) [マーベラス]

特別勘定運用レポート

(組入投資信託の運用状況)

特別勘定の名称	投資信託の名称	投資信託の運用会社	ページ
バランス25	中央三井バランスVA25	中央三井アセットマネジメント株式会社	1
バランス37.5	中央三井バランスVA37.5		2
バランス50	中央三井バランスVA50L		3

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・当資料は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上メットライフ生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上メットライフ生命の責めによるものを除き、三井住友海上メットライフ生命は一切の責任を負いません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

個人年金は、未来への贈りもの。

三井住友海上メットライフ生命
Mitsui Sumitomo MetLife

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・当資料は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上メットライフ生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上メットライフ生命の責めによるものを除き、三井住友海上メットライフ生命は一切の責任を負いません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかにも保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

ファンド名：中央三井バランスVA25

作成基準日：2006年11月30日

ファンドの特色

主として、中央三井日本株式マザーファンド受益証券、中央三井日本債券マザーファンド受益証券、中央三井外国株式マザーファンド受益証券および中央三井外国債券マザーファンド受益証券に投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

基本配分比率は国内株式15%、国内債券40%、外国株式10%、外国債券35%とします。

上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行なう場合があります。

実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。

運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

ファンドの状況

基準価額等

		前月末比
基準価額	10,441円	+90円
解約価額	10,441円	+90円
純資産総額	20,498百万円	+1,221百万円

- 1) 基準価額は信託報酬控除後
- 2) 純資産総額は百万円未満四捨五入

信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	15.4%	15.0%	0.4%
日本債券マザー	39.7%	40.0%	-0.3%
外国株式マザー	10.0%	10.0%	0.0%
外国債券マザー	35.0%	35.0%	0.0%
コール他	-0.1%	0.0%	-0.1%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注) 投資信託純資産総額比

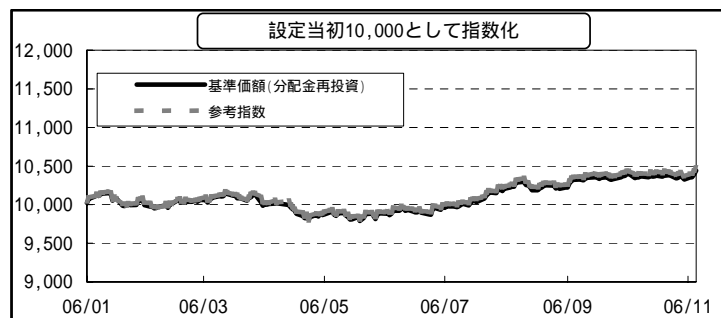
基準価額の騰落率

ファンド設定日：2006/01/26

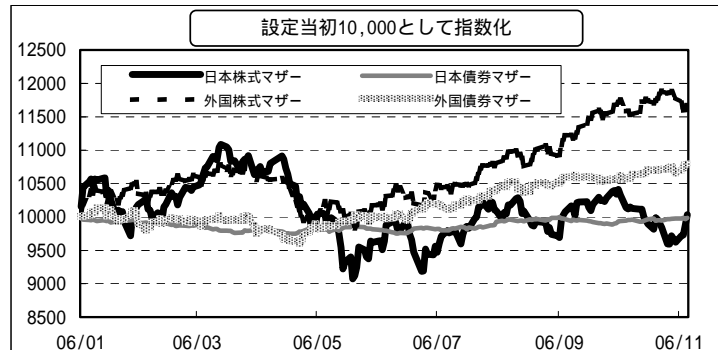
	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	+0.87%	+1.15%	+1.50%	+5.77%	-	-	+4.41%
参考指数	+0.84%	+1.15%	+1.56%	+5.93%	-	-	+4.79%
差	+0.03%	+0.00%	-0.06%	-0.15%	-	-	-0.38%

(注) 参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

基準価額の推移(当ファンド)



【ご参考】マザーファンドの推移



11月の市場動向

- 【日本株式】 月前半は国内景気減速を示す経済指標と株式需給悪化懸念から軟調な展開が続きました。国内7-9月期GDP速報値が事前予想を上回ったことで一時的に反発したものの、外国人の売りにより再び軟調な展開となりました。月末にかけては、10月鉱工業生産指数が予想に反して大幅プラスであったことから、やや値を戻しました。
- 【日本債券】 国内長期金利は、月初の福井日銀総裁による早期利上げ姿勢発言で上昇しました。その後弱めの景気指標で低下しましたが、国内7-9月期GDPの市場予想を上回る数値で再び上昇するなど上下動を繰り返す動きとなりました。月を通じては、株安や米長期金利低下の影響により金利低下推移となりました。
- 【外国株式】 米国の株式市場は軟調な展開が始まりましたが、M&Aの活発化や原油価格の安定が株式市場の下支えとなり、NYダウは史上最高値を更新しました。その後、景気見通しの悪化や急激なドル安進行を背景に一時調整する展開となりましたが、米国7-9月期GDP速報値発表が予想を上回ったことから、月末にかけて再び上昇トレンドに戻りました。
- 【外国債券】 米国の長期金利は、月初の雇用統計が堅調な数値となったことから上昇して始めました。後半になると景況感への不安から金利は低下傾向となり、月末にはドル安を受けて一段と低下しました。他の主要国も同様の推移となりましたが、米国金利ほどの低下とはならず、前月末とほぼ変わらないレベルとなっています。

・当資料は三井住友海上メットライフ生命のMarvelous(変額個人年金保険(2005))の特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の運用状況を開示するためのものであり、当該投資信託の勧誘および生命保険契約の募集を目的としたものではありません。なお、商品の詳細につきましては、商品パンフレット、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をご覧ください。
 ・ご加入のご検討にあたっては、「商品のしくみと特徴(契約概要)」をご契約前に必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。また、ご契約の際は、「特に重要なお知らせ(注意喚起情報等)」「ご契約のしおり・約款」「特別勘定のしおり」を必ずご覧ください。
 ・当資料に記載されているいかなる情報も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、記載されているコメント等は当資料作成時点の見解に基づくものであり、予告なく変更されることがあります。
 ・特別勘定が主たる投資対象とする投資信託は、株式・公社債など値動きのある証券等に投資します。外貨建資産にはこの他に為替変動もがあります。特別勘定では資産運用の結果が直接積立金額に反映されることから、運用実績によっては、お受取りになる積立金額や解約払戻金の合計額が、払込保険料の合計額を下回る可能性があります。特別勘定の運用に伴うこれらの投資リスク・為替リスクはすべてご契約者に帰属します。

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・当資料は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上メットライフ生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上メットライフ生命の責めによるものを除き、三井住友海上メットライフ生命は一切の責任を負いません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかにも保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

ファンド名：中央三井バランスVA37.5

作成基準日：2006年11月30日

ファンドの特色

主として、中央三井日本株式マザーファンド受益証券、中央三井日本債券マザーファンド受益証券、中央三井外国株式マザーファンド受益証券および中央三井外国債券マザーファンド受益証券に投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

基本配分比率は国内株式20%、国内債券30%、外国株式17.5%、外国債券32.5%とします。

上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行なう場合があります。

実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。

運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

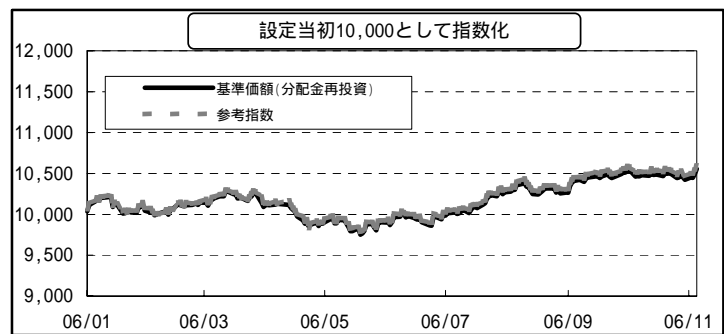
基準価額の騰落率

ファンド設定日：2006/01/26

	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	+0.86%	+1.43%	+1.88%	+6.75%	-	-	+5.57%
参考指数	+0.83%	+1.42%	+1.94%	+6.94%	-	-	+5.99%
差	+0.03%	+0.01%	-0.06%	-0.18%	-	-	-0.42%

(注) 参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

基準価額の推移(当ファンド)



ファンドの状況

基準価額等

		前月末比
基準価額	10,557円	+90円
解約価額	10,557円	+90円
純資産総額	3,459百万円	+473百万円

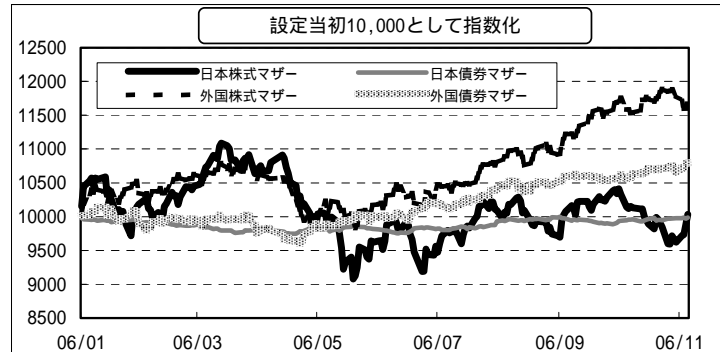
- 1) 基準価額は信託報酬控除後
- 2) 純資産総額は百万円未満四捨五入

信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	20.5%	20.0%	0.5%
日本債券マザー	29.7%	30.0%	-0.3%
外国株式マザー	17.4%	17.5%	-0.1%
外国債券マザー	32.4%	32.5%	-0.1%
コール他	-0.1%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注) 投資信託純資産総額比

【ご参考】マザーファンドの推移



11月の市場動向

- 【日本株式】 月前半は国内景気減速を示す経済指標と株式需給悪化懸念から軟調な展開が続きました。国内7-9月期GDP速報値が事前予想を上回ったことで一時的に反発したものの、外国人の売りにより再び軟調な展開となりました。月末にかけては、10月鉱工業生産指数が予想に反して大幅プラスであったことから、やや値を戻しました。
- 【日本債券】 国内長期金利は、月初の福井日銀総裁による早期利上げ姿勢発言で上昇しました。その後弱めの景気指標で低下しましたが、国内7-9月期GDPの市場予想を上回る数値で再び上昇するなど上下動を繰り返す動きとなりました。月を通じては、株安や米長期金利低下の影響により金利低下推移となりました。
- 【外国株式】 米国の株式市場は軟調な展開で始まりましたが、M&Aの活発化や原油価格の安定が株式市場の下支えとなり、NYダウは史上最高値を更新しました。その後、景気見通しの悪化や急激なドル安進行を背景に一時調整する展開となりましたが、米国7-9月期GDP速報値発表が予想を上回ったことから、月末にかけて再び上昇トレンドに戻りました。
- 【外国債券】 米国の長期金利は、月初の雇用統計が堅調な数値となったことから上昇して始まりました。後半になると景況感への不安から金利は低下傾向となり、月末にはドル安を受けて一段と低下しました。他の主要国も同様の推移となりましたが、米国金利ほどの低下とはならず、前月末とほぼ変わらないレベルとなっています。

当資料は三井住友海上メットライフ生命のMarvelous(変額個人年金保険(2005))の特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の運用状況を開示するためのものであり、当該投資信託の勧誘および生命保険契約の募集を目的としたものではありません。なお、商品の詳細につきましては、商品パンフレット、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をご覧ください。
ご加入のご検討にあたっては、「商品のしくみと特徴(契約概要)」をご契約前に必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。また、ご契約の際は、「特に重要なお知らせ(注意喚起情報等)」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」を必ずご覧ください。
当資料に記載されているいかなる情報も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、記載されているコメント等は当資料作成時点の見解に基づいたものであり、予告なく変更されることがあります。
特別勘定が主たる投資対象とする投資信託は、株式・公社債など値動きのある証券等に投資します。外貨建資産にはこの他に為替変動も生じます。特別勘定では資産運用の結果が直接積立金額に反映されることから、運用実績によっては、お受取りになる積立金額や解約払戻金の合計額が、払込保険料の合計額を下回る可能性があります。特別勘定の運用に伴うこれらの投資リスク・為替リスクはすべてご契約者に帰属します。

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・当資料は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上メットライフ生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上メットライフ生命の責めによるものを除き、三井住友海上メットライフ生命は一切の責任を負いません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかにも保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

ファンド名：中央三井バランスVA50L

作成基準日：2006年11月30日

ファンドの特色

主として、中央三井日本株式マザーファンド受益証券、中央三井日本債券マザーファンド受益証券、中央三井外国株式マザーファンド受益証券および中央三井外国債券マザーファンド受益証券に投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

基本配分比率は国内株式25%、国内債券25%、外国株式25%、外国債券25%とします。

上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行なう場合があります。

実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。

運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

ファンドの状況

基準価額等

		前月末比
基準価額	10,633円	+83円
解約価額	10,633円	+83円
純資産総額	59,136百万円	+6,065百万円

- 1) 基準価額は信託報酬控除後
- 2) 純資産総額は百万円未満四捨五入

信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	25.6%	25.0%	0.6%
日本債券マザー	24.7%	25.0%	-0.3%
外国株式マザー	24.8%	25.0%	-0.2%
外国債券マザー	24.9%	25.0%	-0.1%
コール他	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注) 投資信託純資産総額比

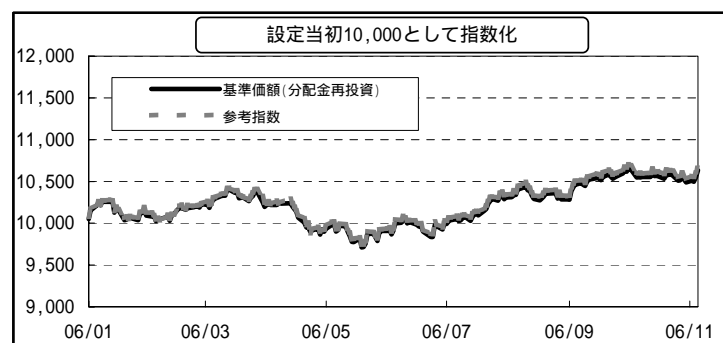
基準価額の騰落率

ファンド設定日：2006/01/26

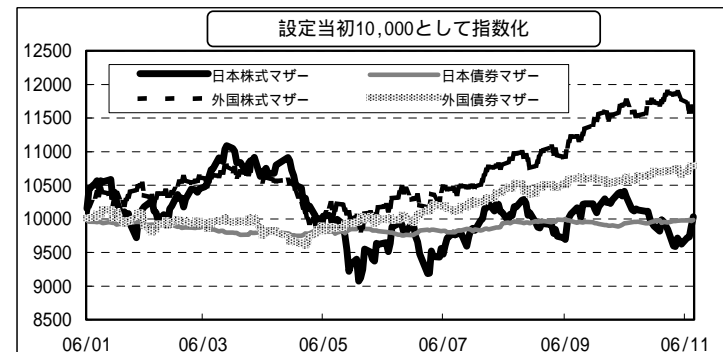
	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	+0.79%	+1.63%	+2.14%	+7.38%	-	-	+6.33%
参考指数	+0.75%	+1.61%	+2.20%	+7.56%	-	-	+6.76%
差	+0.03%	+0.02%	-0.06%	-0.18%	-	-	-0.43%

(注) 参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

基準価額の推移(当ファンド)



【ご参考】マザーファンドの推移



11月の市場動向

- 【日本株式】 月前半は国内景気減速を示す経済指標と株式需給悪化懸念から軟調な展開が続きました。国内7-9月期GDP速報値が事前予想を上回ったことで一時的に反発したものの、外国人の売りにより再び軟調な展開となりました。月末にかけては、10月鉱工業生産指数が予想に反して大幅プラスであったことから、やや値を戻しました。
- 【日本債券】 国内長期金利は、月初の福井日銀総裁による早期利上げ姿勢発言で上昇しました。その後弱めの景気指標で低下しましたが、国内7-9月期GDPの市場予想を上回る数値で再び上昇するなど上下動を繰り返す動きとなりました。月を通じては、株安や米長期金利低下の影響により金利低下推移となりました。
- 【外国株式】 米国の株式市場は軟調な展開が始まりましたが、M&Aの活発化や原油価格の安定が株式市場の下支えとなり、NYダウは史上最高値を更新しました。その後、景気見通しの悪化や急激なドル安進行を背景に一時調整する展開となりましたが、米国7-9月期GDP速報値発表が予想を上回ったことから、月末にかけて再び上昇トレンドに戻りました。
- 【外国債券】 米国の長期金利は、月初の雇用統計が堅調な数値となったことから上昇して始めました。後半になると景況感への不安から金利は低下傾向となり、月末にはドル安を受けて一段と低下しました。他の主要国も同様の推移となりましたが、米国金利ほどの低下とはならず、前月末とほぼ変わらないレベルとなっています。